

a 学校教育目標	地域に愛着と誇りを抱き、 夢の実現に向け自ら学びを求め、行動できる子どもの育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域・保護者の信頼を得、心から「西小で学んで良かった」「通わせて良かった」と誇りに思われる学校
----------	--	----------------------	--

評価計画					自己評価					改善方策		学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント		
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ			
働き方改革の推進	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築する。	「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理その他教育職員の職務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」に基づいた取組の構築と推進	・1カ月の在校時間の総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が45時間を超えないようにする。 ・1年間の在校時間が総時間から条例等で定められた勤務時間の総時間を減じた時間が360時間を超えないようにする。	100%	67.1% (62.0)	73.2% (67.4)	73.2	C	○各月45時間を超えない達成率 ※()内の数字は令和3年度 4月36.0%(33.3) 5月64.0%(59.3) 6月32.0%(50.0) 7月88.0%(85.7) 8月100.0%(100) 9月56.0%(74.0)10月92.0%(52.0) 11月92.0%(66.7) 12月68.0%(70.3) 1月100.0%(80.4)	○学年部での業務内容の標準化の見直し ・役割分担の明確化 ・業務内容の見直し ・既存のデータの活用 ○積極的な生徒指導の推進 ・自己決定の場の設定 ・共感的人間関係の構築 ・自己肯定感の育成 ○個々の業務遂行能力と時間管理能力の育成 ・勤務時間の把握 ・短時間スパンによる計画的な業務遂行 ○専科教員による集中的な支援 ・授業の準備 ・休憩中、給食準備中の支援 ・テスト、宿題等の支援	5/5人			・働き方改革に於いて先生方の線引きの位置に大変苦労されていることを感じる。優先度を決めてはどうか。 ・社会全体の風潮として意識することは必要だと思うが、職業病達成することは無理だと思う。		
確かな学力の育成	主体的に学ぶ児童を育成し、学力の向上を図る。 「かしこく」自ら学ぶ子ども	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を通して、本校で育成を目指す資質・能力をもった、自ら学ぶ児童の育成を図る。 西小学校全校で読解力を高めるドリルに取り組み、本文や資料を根拠にして読み取る力を高め、学年課題に応じた基礎学力の定着を図る。	『主体的な学び』に関する児童アンケート肯定的評価 ・論理的思考力に関するアンケート ①全国学力・学習状況調査平均値正答率 ②NRT国語偏差値平均 ③学期毎単元末テスト「読むこと(思料表)」平均	85%以上	92.1%	84.4%	99.2	B	○論理的思考力に関するアンケート 肯定的評価 84.4% (とても36.9%, まあまあ47.5%) ・目標値にやや届かず、7月の92.1(とても49.5, まあまあ42.6)から減少している。意見を述べる際、理由や根拠が抜けている児童が見られ、論理的に自分の考えを表現することはまだ定着していない。 ・単元末テストも期末たしかめテストも1学期の数値を上回っており、目標値を達成している。読むことに関する力は付きつつあると言える。 一方で、NRTにおいて評定1・2だった児童を抽出すると、単元テストの平均点が70点未満の児童もいる。基礎学力が定着していない児童への支援が必要である。	○授業での発言の際、理由を付けていない児童に対し、「どこからそう思ったの?」「どうしてそう思ったの?」と問い返し、根拠や理由を示すことが習慣化するようにする。 ○考え方や説明の仕方の良い所を取り上げて評価し、良いモデルの共通理解を図る。	5/5人			・授業に於いて一方的に進めるのではなく、児童生徒の「話す力」を養うためにも、意見とかに耳を傾けることも必要なことではないか。 ・働き方改革に反するが、基礎的な学力の定着、「学ぶ意味」の理解も必要かと考える。 ・考えることも必要だと思うが、疑問を持つことを意識させる取組ができないだろうか。「なぜ」ということを考えさせることが必要だと思う。		
豊かな心の育成	様々な人や事象とのかかわりを通して、社会性や豊かな人間性を培う。 「なかよく」心豊かな子ども	合唱と読書活動等の充実と奉仕活動等を通して、豊かな感性・豊かな心の育成を図る。 特色ある地域の学習材や人材の活用と交流を通して、地域を想う心情を育てるとともに、社会貢献意識と規範意識の向上を図る。	学年(学級)ごとに児童の実態に応じた合唱に取り組み、仲間意識や表現力の育成を図る。また日常的な音声表現活動(詩や短歌・俳句等の音読・暗唱)を通して、自己表現に自信を持たせる。 特色ある地域の学習材や人材の活用、交流を通して、「ふるさと学習」やボランティア活動に全学年で取り組み、社会貢献意識や規範意識の向上、お世話になった方々への感謝の意を表す活動を通して、ふるさとを愛する心情と相手意識を育てる。	『自らへの自信』に関する児童アンケート肯定的評価	80%以上	85.0%	78.0%	98%	B	・肯定的評価が78%だったということで、目標とする数値を下回る結果となった。 ・7月(85%)と比べて7%低い数値となった。 ・「ぜんぜんあてはまらない」と答えた児童が全校で7.9%(33人)いて、前回(5.3%, 22人)よりも増えている状況である。	・自己肯定感を高めるために、日々の言動が肯定的になるように意識させるよう、声掛けをしていく必要がある。 ・相手を肯定的に評価するような、「今日のキラリ」のようなものに引き続き取り組んでいく。	4/5人	1/5人		・豊かな心の育成には集団での体験活動が基本ではなからうか。昔からの「同じ釜の飯を食う」とした共同作業等。	
健やかな体の育成	自らの体力と健康を向上させ、自己管理能力の育成を図る。 「たくましく」健やかな子ども	組織的・計画的の実施により児童の体力の向上を図る。 食教育や保健・安全教育の推進により、自己管理能力の育成を図る。	児童アンケートや体力テストの調査の結果分析をもとに、課題克服のための取組(校内研修、外部講師による児童への直接指導、小中連携等)を充実させ、教職員の意識向上と児童の体力向上を図る。 保健指導や委員会活動などを通して、児童に食物アレルギー対応などを含む食教育や保健・安全教育の改善・充実を図り、児童の自己管理能力の育成を図る。	①体力テスト全国及び県平均値以上達成率 ②児童アンケートの外遊びをすることへの肯定的評価	①75%以上 ②80%以上	①25% ②76.6%(73%)	①25% ②77.2%	①33% ②96%	①D ②B	①体力テスト全国及び県平均値以上達成率は25%だった。男子は運動やスポーツをすることがややきらい、きらいと答える児童の割合が7.9%である。(前年比5.1%↑) 女子運動やスポーツをすることがややきらい、きらいと答える児童の割合が13%である。(前年比2%↑)まだ、再計測はしていない。 ②外遊びへの肯定的評価は72.2%であった。(+0.6) 「あまりあてはまらない」児童が14.4%(-2.8)であり、「まったくあてはまらない」児童が8.4%(-0.5)だった。 ・体育委員による休憩中の外遊びの声掛けを行う。教員もできるだけ児童といっしょに外遊びをする。 ・5分間走の取組を行い、体力向上につなげる。 ・体力アップは、宿題としてだけでなく、体育の授業の始めにも毎回取り組んでいくようにする。 ・体力テストの重点項目の再計測を行う。事前に各種目のポイントの紹介や練習をさせる。	・体育委員による休憩中の外遊びの声掛けを行う。教員もできるだけ児童といっしょに外遊びをする。 ・5分間走の取組を行い、体力向上につなげる。 ・体力アップは、宿題としてだけでなく、体育の授業の始めにも毎回取り組んでいくようにする。 ・体力テストの重点項目の再計測を行う。事前に各種目のポイントの紹介や練習をさせる。	4/5人	1/5人		・脳トレをする様なゲーム遊び感覚で室内に居るか、汗と埃にまみれながら外気に触れてのスポーツをすることが少なくなったのか、一考を要す。 ・働き方改革に反するが、教職員も積極的に児童と一緒に外遊びをお願いしたい。 ・体力低下は学力低下と同レベルで問題である。「できるだけ」でなく率先して体を動かすべき。 ・①は社会情勢から仕方ないと思われる。評価口(自己評価は適正でない)というより、目標が高いかもしれない。	

【j: 自己評価 評価】

A: 100 ≤ (目標達成) B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100
C: 60 ≤ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

【l: 学校関係者評価 評価】

イ: 自己評価は適正である。ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。